

早大生と勉強

教員との会話

ゼミの先生とは時々しゃべるけど、他の先生とはめったに話さない。だって、用がないし、とっつきにくそう。でも、話したらおもしろいかも。



授業への興味

授業には興味あり！でも、やる気のないように見える先生が結構いるし、大教室の授業もつまらないよ。「抽選もれ」「自動登録」などをなくして、関心のある授業をもっと自由にとらせてほしいね。

授業出席率

授業にはまじめに出席！興味がある授業は休みたくないし、履修科目が多いと大学によく来るから、授業にも出席するね。

授業選択時の重要要素

「楽勝科目」じゃなくて、授業はやっぱり「内容」が第一！「講義の曜日や時間帯」も考えて、効率よく選んでるよ。やりたいことはたくさんあるもの。

勉強時間

自宅や図書館での勉強時間は週平均9.3時間。大学生としてますますかしら、短いかしら？でも、3、4割の学生が週3時間未満しか勉強していないってのは…。

欠席理由

授業にでないのは「なんとなく」。サークルが忙しいときとか、おもしろくない授業もついついさぼっちゃうけれど、1年のときは休まなかったなあ…。

図書館利用

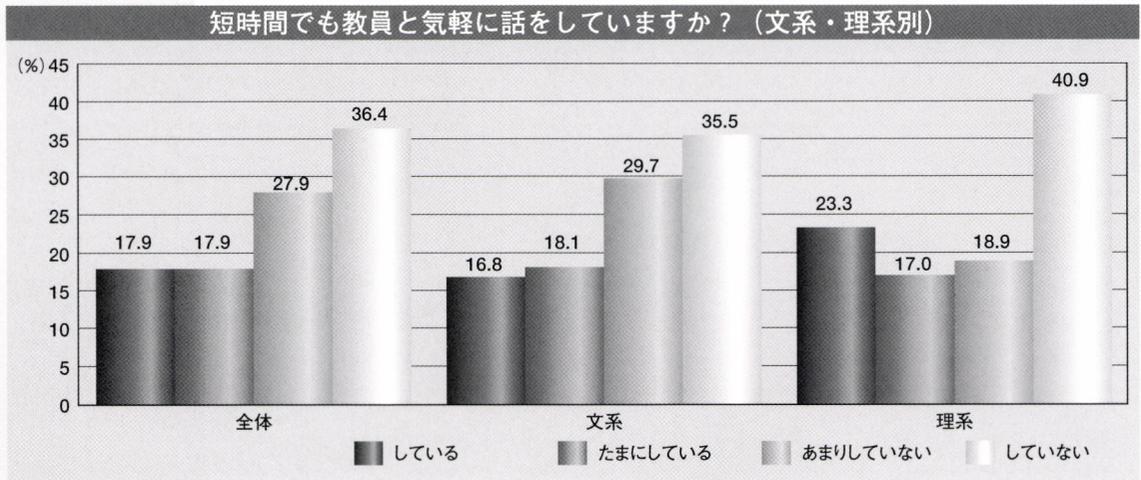
早稲田の図書館は充実していて大満足！本を借りたり資料を探したりするだけでなく、勉強や読書にもすごく快適。利用しなければ損だよ、絶対！



(1) 教員との会話

「短時間でも教員と気軽に話をしていますか？」という質問に、「している」「たまにしている」と答えた学生はともに17.9%で、教員と会話をしている学生は3分の1にすぎません。大半の学生にとって教員はさほど身近な存在ではないようです。

文系・理系を比べると、「している」「たまにしている」学生の比率は文系が34.9%、理系が40.3%と理系学生のほうが高くなっていますが、理系では文系よりも気軽に会話を「している」比率が6.5ポイント高い一方で、会話を「していない」比率も5.4ポイント高く、よく話す学生と話さない学生の分極化が見られます。

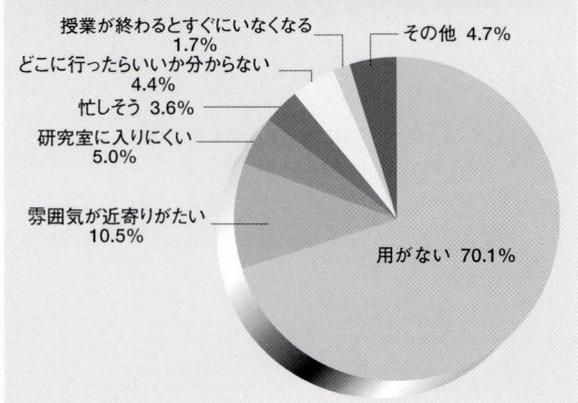


教員と話さない理由として7割の学生が「用がない」と答えています。「雰囲気が近寄りやすい」「研究室に入りにくい」「忙しそう」「授業が終わるとすぐにいなくなる」という理由も2割を占め、学生の側に遠慮もあるようです。また「どこに行ったらよいのか分からない」という学生も4.4%います。

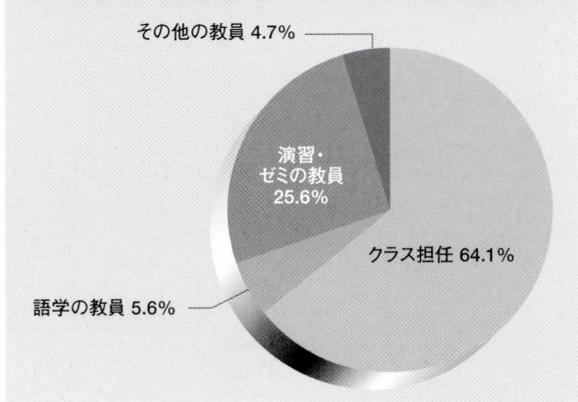
この調査でも学生は、「大教室での講義が多い」「教員にやる気がないように見える」「つまらない」「水準が低い」「休講が多い」など、具体的に不満を挙げていますが、大教室での授業を通して学生の中で形成される教員像や教員評価が、教員との関係を疎遠にしている1つの要因であるように思われます。

実際に話してみた学生の大半は、「気さく」「親身」「丁寧な対応」「有益」「知的刺激」「本音が聞けて面白い」など、教員との会話をプラスに捉え、大教室の講義とは違う教員の一面に触れているようです。しかし、「教員といえども普通の人で迫力なし」「ジェネレーション・ギャップ」「気疲れ・緊張」「恐ろしい」など、否定的な意見も少数ながらありました。

話をしない理由はどういうところにありますか？

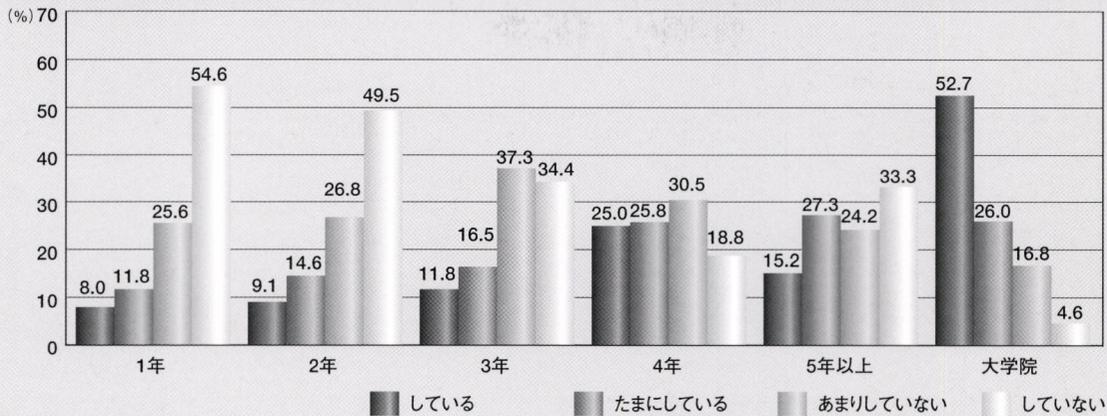


よく話をするのはどんな先生ですか？



教員と話をする学生は、学年が上がるほど多くなります。「話をしている」「たまにしている」学生は1年で19.8%ですが、2年で23.7%、3年で28.3%と増え、4年では50.8%を占めます。しかも4年では25.0%の学生がかなりの頻度で気楽に話しています。それは、高学年になると演習・ゼミなどの少人数科目を履修することや、就職・進学などで個人的に教員に相談する機会が増えるためと考えられます。大学院学生では半数以上が教員とよく話をしています。

短時間でも教員と気軽に話をしていますか？（学年別）



会話をする相手の教員は、1位「クラス担任」(64.1%)、2位「演習・ゼミの教員」(25.6%)、3位「語学の教員」(5.6%)となっています。語学のクラスは比較的小規模ですが、語学教員と話をする学生は少ないようです。1年から3年までの話相手は主としてクラス担任で、1、2年ではその割合が約8割を占めていますが、学年が上がるほどクラス担任の比率は低下し、3年では70.8%、4年では45.3%となります。その一方で、演習・ゼミ教員の比率が1、2年で5.0%強、3年22.2%、4年では49.2%と学年が上がるにつれ高くなっています。

(2) 授業への興味

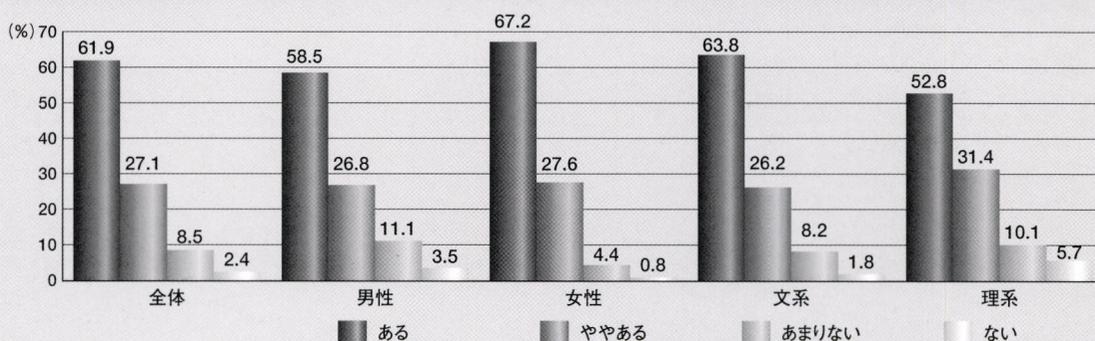
学生の61.9%が授業に「興味がある」、27.1%が「やや興味がある」と答えています。「興味がありません」学生は8.5%、「まったく興味がない」学生は2.4%に過ぎません。学生の9割が授業に関心を持っていることになります。

性別では、女性の関心のほうが高く、「興味がある」と答えた人の比率は男性を8.7ポイントも上回っています。他方、男性では「あまり興味がない」「興味がない」が14.6%で、女性の5.2%を大きく上回っています。

文系と理系を比べると、「興味がある」は文系63.8%、理系52.8%、「興味がない」は文系1.8%、理系5.7%で、文系の方が関心度は高くなっています。この差は、理系では専門性が高く、講義内容も限定されているため、自分の専攻に興味を持てなくなったときに、代わるものを見つけにくいということに関連しているのかもしれませんが。

また、授業への興味は推薦入学学生で最も高く、ついで一般入試、付属・系属校進学の順です。興味の度合いは健康状態にも左右され、健康状態のよい学生ほど関心を示しています。

大学の授業に興味がありますか？（男女別、文系・理系別）

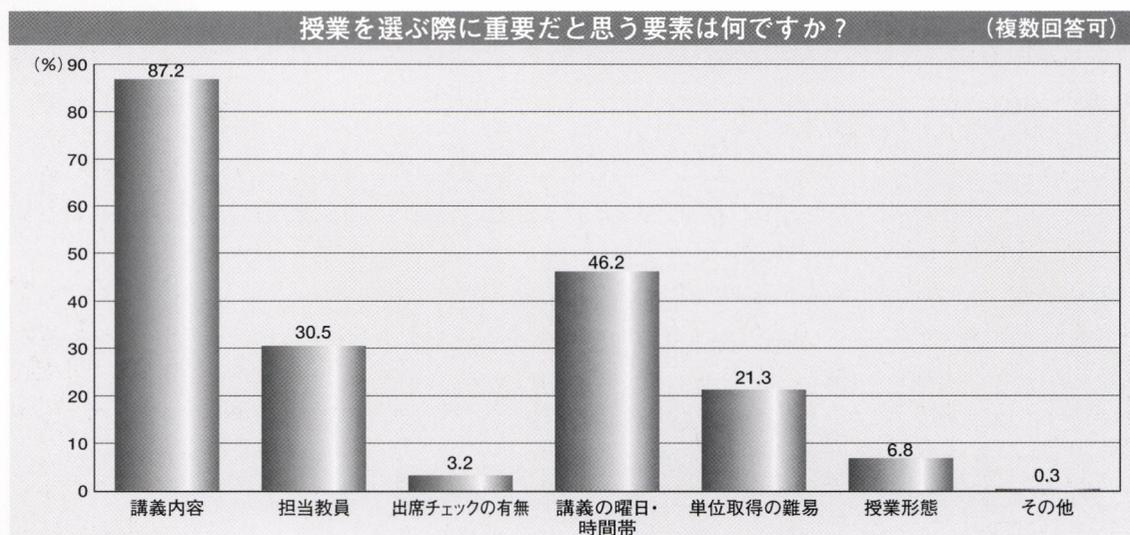


学生は授業に興味を持っていますが、授業に満足しているわけではありません。もちろん、「授業内容が充実している」「レベルが高く興味をそそられる」「他学部聴講が可能で選択肢が多い」「必修科目が少なく自由に選択できる」など、肯定的な意見もありますが、不満の方が多いようです。教員についての不満は、「意欲が感じられない」「講義能力が低い」「教員間の差が大きすぎる」などで、「教員評価制度の導入」を求める声もあります。また、学部の大教室授業だけでなく、大学院でも学生数の多さが問題視されています。科目履修についても、「登録手順の分かりにくさ」「抽選もれ」「自動登録」「履修上限規定」「仮受講ができないこと」など、取りたい科目を自由に履修できないことに学生は大きな不満を感じています。さらに近年、他学部聴講だけでなく全学共通科目の設置や他大学との協定によって、学生の科目選択の幅が拡大されていますが、それについても、歓迎する意見がある一方で、講義のカルチャーセンター化や早大生定員枠の減少に疑問が投げかけられています。

このように学生は授業に関してさまざまな意見を持っていますが、まさにそのことが、学生の授業に対する思い入れ、もっと興味あることを学びたいという熱意の表れであると考えられるべきでしょう。

(3) 授業選択時の重要要素

では、早大生はどのような点を考慮して授業を選択しているのでしょうか。主たる要素を2つ挙げてもらったところ、第1が「講義内容」(87.2%)、第2が「講義の曜日・時間帯」(46.2%)、第3「担当教員」(30.5%)、第4「単位取得の難易」(21.3%)という順位でした。一般に言われているほど「楽勝科目」かどうかを重視するのではなく、「講義内容」や「担当教員」を見ています。「講義要項と実際の授業内容が違うこと」への不満や、「事前に数回、講義に出席してから登録できるように、予備期間を設けてほしい」という希望があることから、学生が内容に重きを置いていることが分かります。



性別では、女性の91.3%が「講義内容」と答え、男性を6.6ポイント上回っていますが、「単位取得の難易」を挙げた男性は25.4%で、女性の14.8%よりも高く、男性の方に楽勝科目を選ぶ傾向があります。

また学年別では、学年を通して1位の「講義内容」と2位の「講義の曜日・時間帯」の順位は共通していますが、2年では3位「単位取得の難易」(30.1%)、4位「担当教員」(22.3%)、3、4年では3位「担当教員」(それぞれ33.0%、31.0%)、4位「単位取得の難易」(それぞれ18.7%、19.0%)と、順位が逆転しています。2年では履修する科目数が最も多いために単位のとり易さが重要となり、3、4年では演習・ゼミや専門科目が中心となるので、担当教員が重視されることを示唆しています。

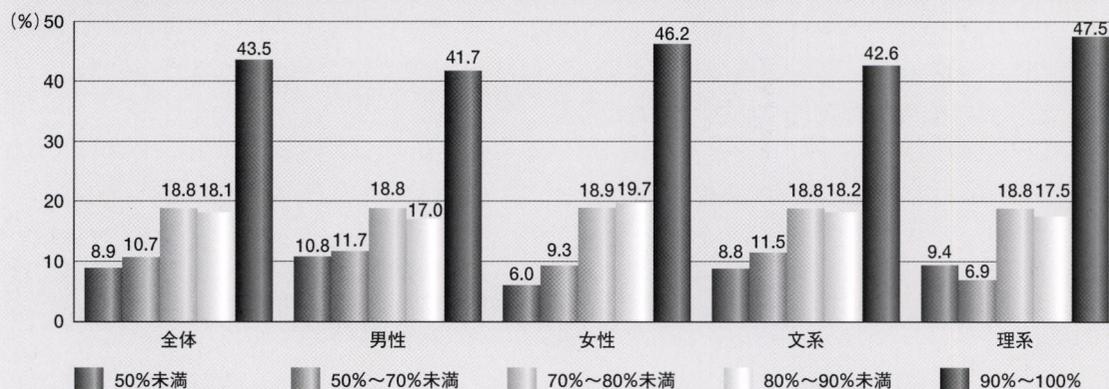
「出席チェックの有無」は、授業選択の際にほとんど考慮されませんが、学生の関心がないわけではありません。自由記述回答の中には、「自由に余裕を持って学びたい」「つまらない授業なのに出席をとられたくない」など理由はさまざまですが、近年の出席重視の傾向について批判的な意見も見られます。

(4) 授業出席率

授業への出席率はかなり高く、43.5%の学生が「90%～100%」、すなわちほとんど欠席することなく授業に出ています。「70%以上」出席している学生は合計8割に上り、出席率「50%未満」の学生は8.9%に過ぎません。この出席率は実際よりも高いような気がしますが、授業への興味の高さから見ても、早大生は授業に対して総じて真面目であると言えます。

性別では、女性の出席率が男性を上回っており、ここにも女性の講義への関心の高さを見ることができます。男女間には出席率「90%以上」では4.5ポイント、「80%以上」では7.2ポイントの差が認められますが、逆に出席率「50%未満」では男性が4.8ポイント高くなっています。

授業平均出席率はどれくらいですか？（男女別、文系・理系別）

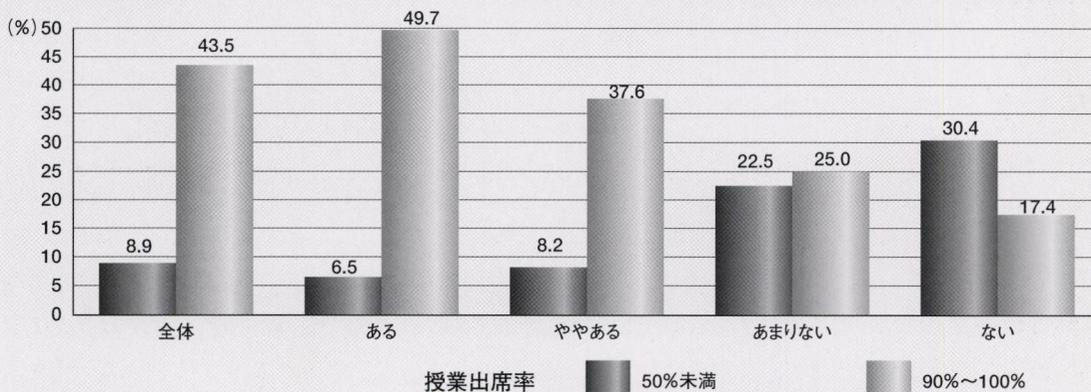


学部別で見ると、出席率の高いのは人間科学部、理工学部で、出席率「90～100%」の学生が約半数を占めています。逆に出席率の低いのは法学部、社会科学部、政治経済学部で、出席率「50%未満」の学生が15.0～17.0%、出席率「50%～70%未満」の学生が15.0～16.0%もいます。この数値からも明らかのように、文系・理系では、実験の多い理系の出席率の方が高いという予想どおりの結果です。しかし、出席率「50%未満」の比率は文系8.8%、理系9.4%で、理系の方が高く、この点は、先に見たように、文系より理系で授業に興味のない学生の比率が高いこととも一致しています。

学年別では、出席率「90%以上」の学生の比率は1年の58.4%から、2年38.4%、3年39.2%、4年22.7%と、高学年ほど下がり、反対に出席率「50%未満」の比率は1年3.8%、2年8.6%、3年8.0%、4年12.5%と、学年とともに上昇しています。特に2年と4年に出席率の大きな低下が見られますが、2年の低下は大学生活への慣れや授業数の多さによるもの、4年の低下は主に就職活動によるものと考えられます。

出席率と授業への興味との間には相関関係があります。授業に「興味がある」と答えた学生では、半数がほとんど出席し、出席率「50%未満」の学生はわずか6.5%ですが、「興味がない」学生では出席率「50%未満」が30.4%で、ほとんど出席しているのは17.4%にすぎません。

授業平均出席率はどれくらいですか？/大学の授業に興味がありますか？



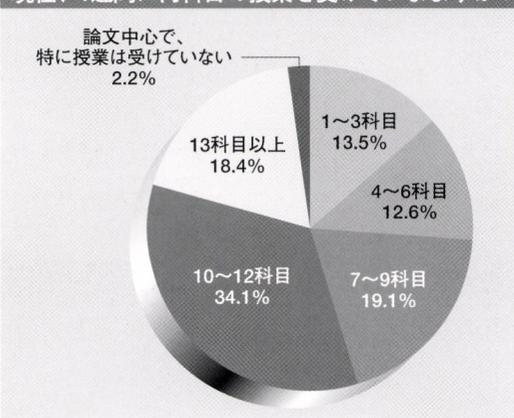
(5) 科目数

学生の52.5%が週に10科目以上の授業を受けており、6科目以下しか受けていない学生は26.1%、3科目以下の学生は13.5%にすぎません。

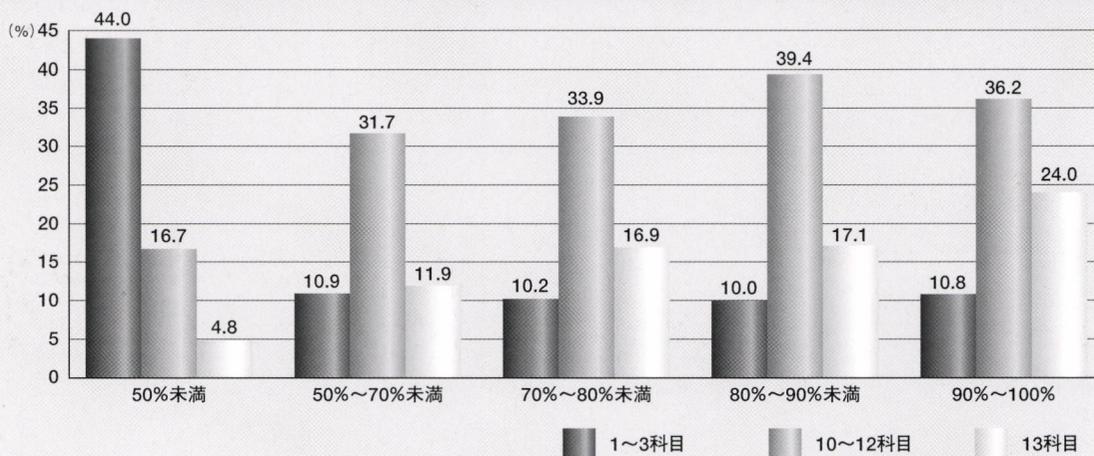
学年別に見ると、10科目以上を受けている学生の比率は1年70.6%、2年81.3%、3年62.7%、4年16.4%、中でも13科目以上をとっている学生は1年29.0%、2年33.8%、3年13.2%、4年4.7%で、1、2年でかなりの科目をとっていることが分かります。最も履修科目数の多いのが2年ですが、このことは、先に見たように、2年で単位取得が容易な科目を登録する傾向が強いことや出席率が下がることと関連しているようです。3科目以下の学生の比率は1年から3年までは5.0%以下ですが、4年では32.0%、5年以上の学部学生では42.4%になります。

また、履修科目数の少ない学生ほど出席率が低く、科目数の多い学生ほど出席率が高い傾向が認められます。出席率「50%未満」の学生のうち、科目数が3科目以下の学生の割合は4割を超えますが、出席率「50%以上」の学生の中で3科目以下の学生は約1割に過ぎません。4年の出席率が低いのは、履修科目の少なさと関連があるようです。反対に、出席率が高くなるにつれて、10科目以上履修している学生の比率は上昇し、出席率「90～100%」の学生では6割が10科目以上を受けています。

現在、1週間に何科目の授業を受けていますか？



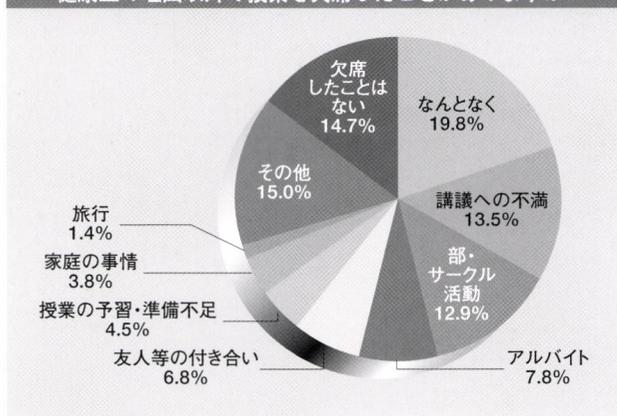
現在、1週間に何科目の授業を受けていますか？/授業平均出席率はどれくらいですか？



(6) 欠席理由

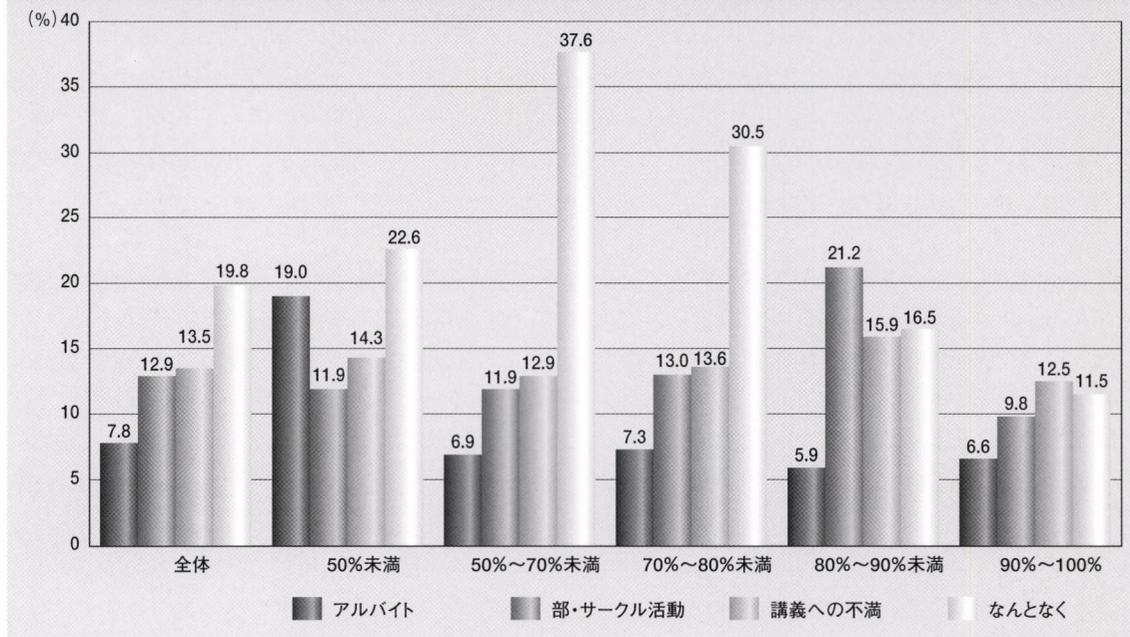
病気以外の欠席理由は、「なんとなく」(19.8%)が最も多く、ついで「講義への不満」(13.5%)「部・サークル活動」(12.9%)「アルバイト」(7.8%)の順です。

健康上の理由以外で授業を欠席したことがありますか？



出席率「50%～80%」未満の学生では「なんとなく」欠席してしまう人が約3分の1を占めますが、出席率「80%～90%」未満では「なんとなく」(16.5%)というよりも、「部・サークル活動」(21.2%)、「講義への不満」(15.9%)など、明確な理由で欠席する人が多くなっています。また、出席率「50%未満」の学生では「なんとなく」(22.6%)、「アルバイト」(19.0%)の順になっています。出席率「50%以上」の学生でアルバイトを欠席理由に挙げたのは5.9～7.3%ですから、欠席の多い学生の方が、アルバイトを優先する傾向にあります。また出席率にかかわらず、12.5%～15.9%の学生が、「講義への不満」を欠席理由に挙げていることも注目されます。ちなみに出席率「90%以上」の学生が挙げた第1の理由は「講義への不満」(12.5%)です。

健康上の理由以外で授業を欠席したことがありますか？/授業平均出席率はどれくらいですか？



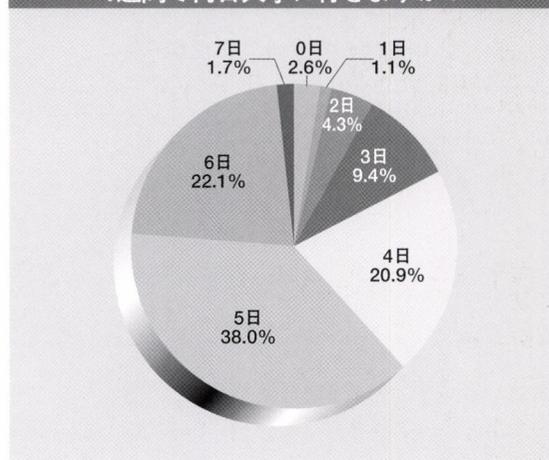
(7) 登校日数

1週間の登校日数を見ると、「5日」来ている学生が38.0%と最も多く、ついで「6日」(22.1%)、「4日」(20.9%)の順です。学生の8割が4日以上、6割が5日以上、登校しています。

文系・理系で比較すると、週「5日以上」登校する学生が理系では75.7%で、文系の59.1%を上回っています。理系の学生の方が全般によく大学に来ていますが、まったく登校しない学生も理系は3.8%、文系は2.3%で、少人数ながら理系に多くいます。

学年別では、週「5日以上」登校する学生の比率が1年84.5%、2年69.7%、3年61.8%、4年29.0%と、学年が上がるにつれて登校日数が減っています。4年の半数は週3、4日しか登校していません。4年の登校日数が少ない理由は、受講科目数が少ないこと、就職活動で多忙なことなどにありますが、勉強時間の項で見ると、4年の自宅・図書館で勉強する時間は学年別で最長です。

1週間で何日大学に行きますか？



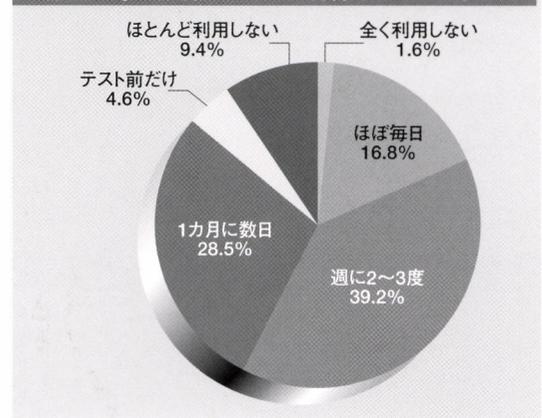
(8) 図書館利用

早大生の多くは図書館が充実していることに満足していますが、図書館や学生読書室はどのくらいの頻度で利用されているのでしょうか？「週に2～3度利用する」と答えた学生が39.2%で最も多数を占めますが、「ほぼ毎日利用する」人も16.8%います。「ほとんど利用しない」「まったく利用しない」学生は合計11.0%に過ぎませんので、図書館は比較的良好に利用されているといえます。

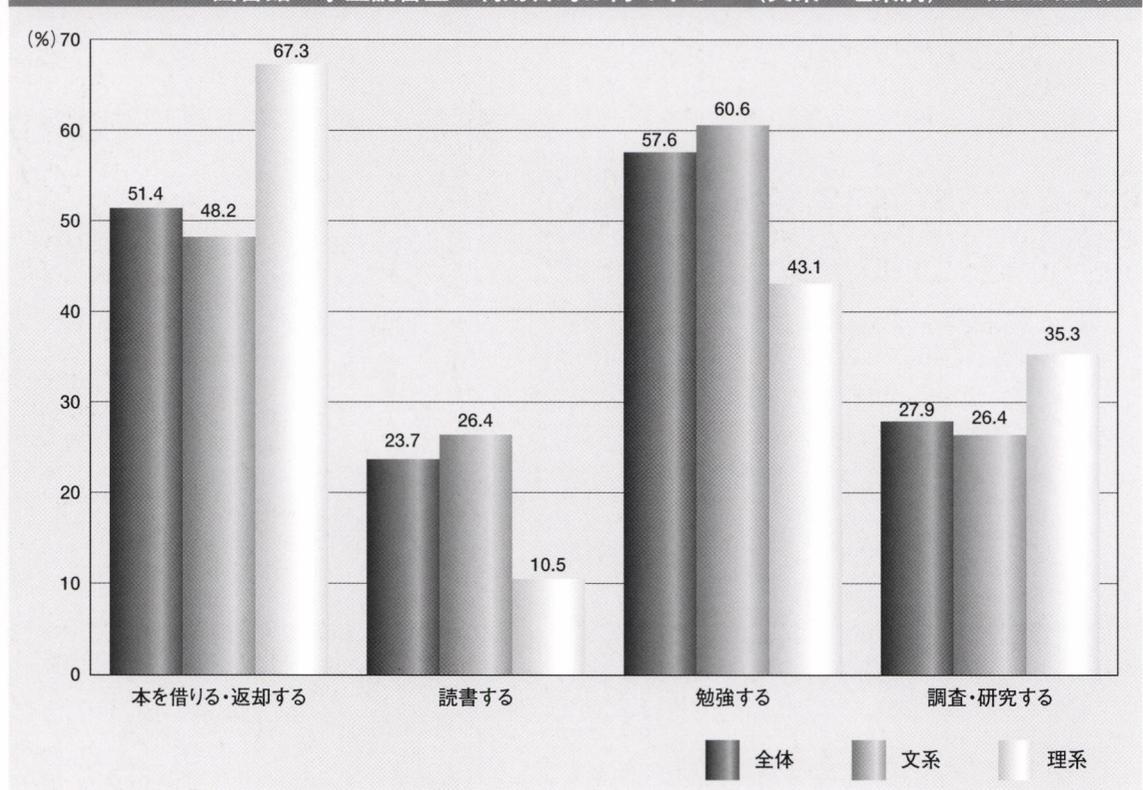
性別で見ると、「週2～3度利用する」が男性36.9%、女性42.9%で、「ほとんど利用しない」「まったく利用しない」は男性13.0%、女性7.7%です。女性の方が図書館を利用しています。女性は授業への関心度、授業への出席率でも男性を上回っていますが、図書館利用についての結果も、女性が勉学熱心であることを示しています。

また、文系の方が理系の学生よりも図書館・学生読書室を利用しています。文系では「ほぼ毎日利用する」が17.9%、「週に2～3度利用する」が39.7%ですが、理系ではそれぞれ11.3%、36.9%となっています。このような利用頻度の差は、文系が文献重視であるからというだけでなく、図書館の利用目的が違っていることにも一因があります。主な利用目的を尋ねたところ、文系の学生の目的は第1に「勉強」（60.6%）、ついで「図書の借出・返却」（48.2%）、「読書」と「調査・研究」（ともに26.4%）ですが、理系の学生では「図書の借出・返却」（67.3%）、「勉強」（43.1%）、「調査・研究」（35.3%）の順でした。理系学生が主に「資料探しの場」として利用しているのに対して、文系学生は「勉強の場」として利用しており、そのために文系ではほぼ毎日利用する学生が多いものと考えられます。

図書館・学生読書室をどの程度利用していますか？



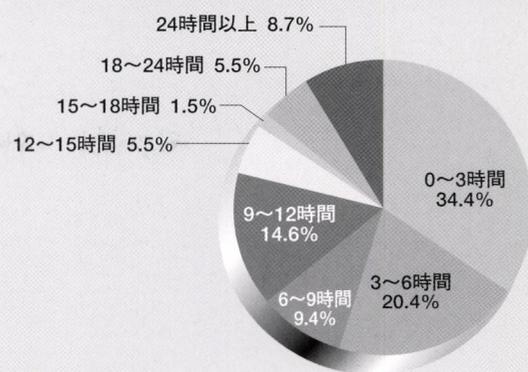
図書館・学生読書室の利用目的は何ですか？（文系・理系別）（複数回答可）



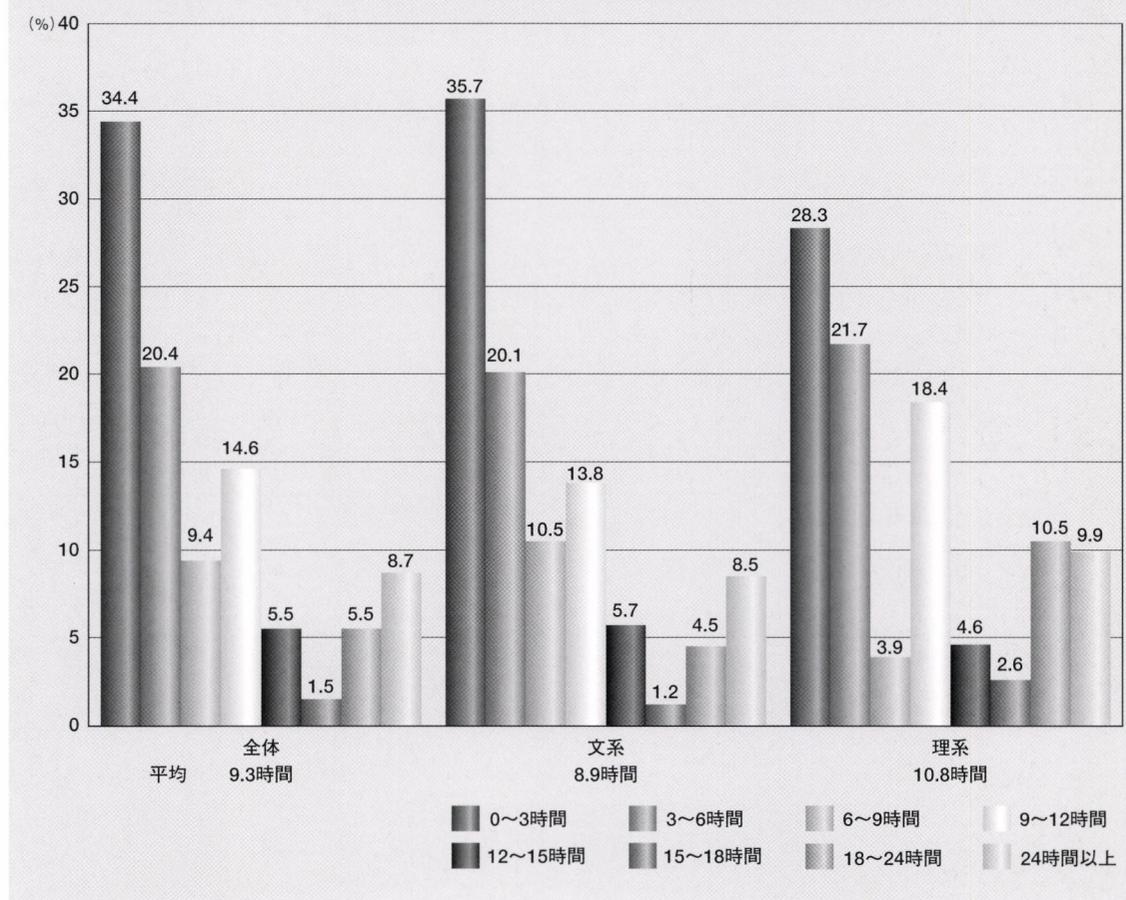
(9) 勉強時間

早大生はどのくらい勉強しているのでしょうか？ 1週間の授業以外の勉強時間、すなわち自宅や図書館での勉強時間は、全体平均で9.3時間、男性9.5時間、女性8.8時間でした。しかし、男性の34.4%が週3時間未満しか勉強しておらず、54.8%の学生の勉強時間は週6時間未満です。女性は男性よりも授業への関心度、出席率、図書館の利用頻度が高いにもかかわらず、自主的な勉強時間は短くなっています。週18.0時間以上勉強する比率も、男性を4.6ポイント下回っています。女性の勉強は「授業中心」なのかもしれません。

自宅・図書館での研究・勉強時間は週平均で何時間ですか？



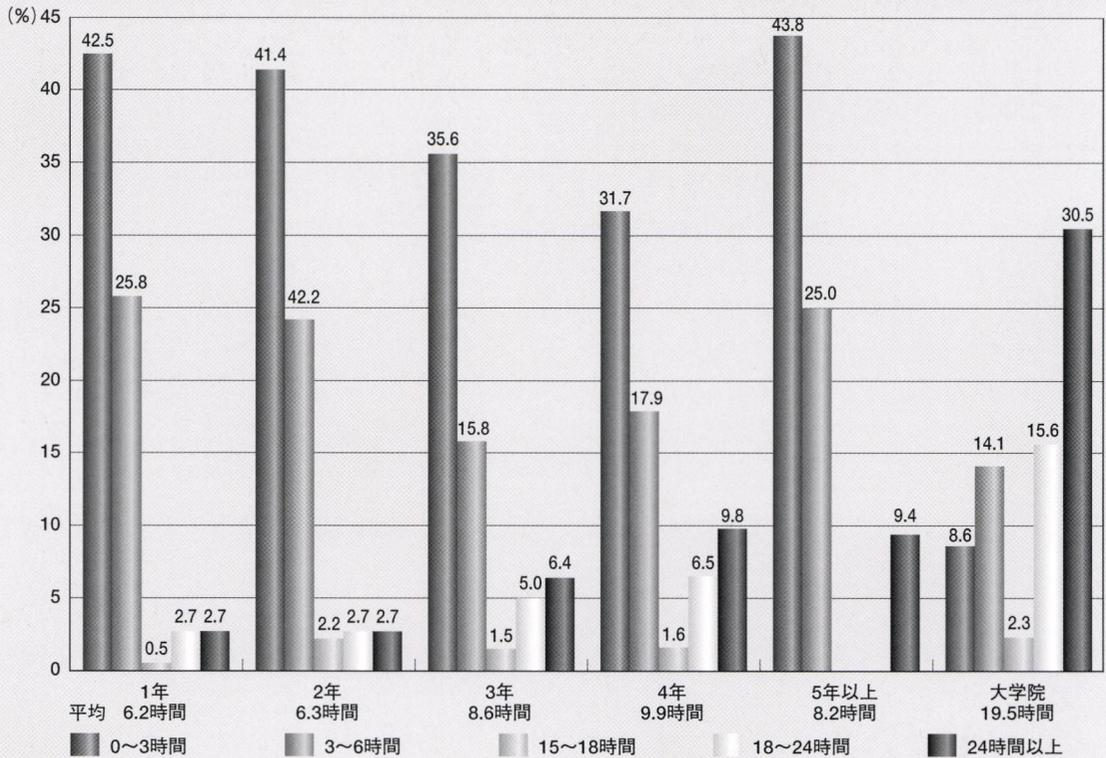
自宅・図書館での研究・勉強時間は週平均で何時間ですか？ (文系・理系別)



文系・理系別では、文系平均8.9時間、理系10.8時間です。週「3時間未満」、すなわちほとんど勉強しない学生が文系35.7%、理系28.3%、「18時間以上」勉強する勤勉な学生の比率は文系13.0%、理系20.4%で、理系学生の方がよく勉強しています。

学年別では、どの学年でも週3時間未満の学生が3~4割で最多ですが、高学年になるほどその比率が低下します。平均勉強時間は、1、2年では6時間強ですが、3年では8.6時間、4年では9.9時間です。また週「18時間以上」勉強する学生は、1、2年では5.4%に過ぎませんが、4年では16.3%にもなります。1、2年では履修科目数が多いため、勉強の中心は講義ですが、4年では講義に代わって卒論・ゼミ論などのための自主的な勉強が中心になっているようです。大学院学生では、30.5%の学生が週「24時間以上」勉強し、平均は19.5時間ですが、週「6時間未満」しか勉強していない大学院学生も22.7%います。

自宅・図書館での研究・勉強時間は週平均で何時間ですか？（学年別）



自宅・図書館での勉強時間と授業への関心との間には、関心度が高くなるにつれて勉強時間が長くなるという傾向が見られます。「興味がある」学生と「興味がない」学生の平均勉強時間は10.6時間と5.0時間で、2倍の開きがあります。授業に「興味がない」学生の56.5%が週「3時間未満」、21.7%が「3~6時間」しか勉強していませんが、「興味がない」学生の8.6%が週「18時間以上」勉強していることから、少数であっても自主的に勉学に励んでいる学生がいることも事実です。

自宅・図書館での研究・勉強時間は週平均で何時間ですか？/大学の授業に興味がありますか？

